

## 日本ことわざ文化学会第五回大会「健康とことわざ」

11月15日秋晴れ吉日、善男善女が東から西から「ことわざの世界」求めて集まりました。今回のテーマは「健康とことわざ」、身体と心とアタマを刺激する知的で健康的な大会の模様をご報告いたします。

### 【総会】

議長に会員の永田雄三氏を選出し、2013年度の活動報告、会計報告ならびに会計監査報告を行った後、新任命理事1名の選出を行いました。2014年度理事紹介を行い2014年度の予算案、活動計画案の承認を得て総会を終了しました。

### 【学会大会】

#### 1.【研究発表】(座長:渡辺 慎介)

##### ①日本語教育とことわざーその新たなる視点ー

発表者:神津 智子・村上 彩夏

日本語教育の一環として、外国人に「ことわざ」を教授のために「わらべ歌」の拍を利用した指導法があるといえます。これを基に、ことわざの音、リズムに着目した「日本語とことわざ教育への可能性」を探る研究発表。オリジナル版「ことわざの歌」(作詞・作曲神津)も披露され会場もにっこり。一緒に口ずさむ会員も！ことわざソングの楽しい歌詞と簡単な振り付けは、外国人のみならず、学校教育や介護予防、福祉の現場にも応用できそうです。

##### ②地球温暖化とことわざ

発表者:森山賢一

地球温暖化を主軸にマクロ的に「地球の健康」を、ミクロ的に「私たち人類への影響」を、ことわざを通して考察した発表。現在小学生対象の環境教育プログラムの地球温暖化防止学習に従事している氏の活動拠点京都は環境モデル都市であり、京都議定書の温室効果ガス排出削減目標値をクリア出来た都市でもありますが、地球温暖化対策を創作ことわざや防災かるた等「ことわざを活かした処方箋」から探ります。

##### ③スポーツとことわざ

発表者:清水泰生

かつてスポーツは、根性・忍耐の文字がつきものでしたが、昨今は「楽しさ・明るさ」を前面に出しているようです。さて、このスポーツにスポットをあてた『スポーツことわざ小辞典』なるものが1992年に刊行されたと言いますが、

20年以上経て、スポーツ界やその環境も大きく変わりました。発行者木内氏が奇しくも今年(2014年)亡くなられたそうですが、陸上競技会でも活躍する清水氏は「その熱い思いを受け継ぐためにも何らかの形で改訂をしなければ」と提唱します。

## 2.【シンポジウム】(司会:山口政信) テーマ:「健康とことわざ」

### パネリスト

- 川上千里: 当てにすな医者の見立てと薬の効果
- 松本光正: 「君子医者に近寄らず」諺守って健康人生
- 時田昌瑞: いろはカルタに見る健康ことわざ
- 塩田博文: 「天佑神助」

日本は今超高齢化社会、誰でも死ぬまで(!)元気で長生きしたいと秘かに思っています。またさらに国を挙げての「健康ブーム」、サプリだ、メタボだ、やれ検診だ、と何が何でも「健康第一」の感がありますが、さて、この健康について、先人たちはどうとらえてきたのでしょうか? 困った時は先人の智慧に聞け、というわけで、今回は「健康とことわざ」をテーマに、各界の先生方よりお話していただきました。司会は軽妙洒脱な語り口の山口政信先生です。

まず、トップバッターは川上千里氏ですが、薬剤師の氏に「当てにすな…薬の効用」などと言われてしまい、場内は驚愕と笑いに包まれました。最近狭心症で倒れて命拾いをした事、ガン患者友の会との関わりという体験は、医者が「匙投げて、生き延びられる」こと、「自分の命は自分で守る」ことを実感いたしました。氏は現在77歳、お顔の色艶・声も良く、「笑う門には福来る」の諺を実践されていることが伝わってきました。

お次は内科医師松本光正氏。こちらも演題から「君子医者に近寄らず」ですが、心が明るいと肉体も健康になる、まさに「病は気から」と提唱する現役内科医のことわざを駆使した解説は説得力あるものでした。「笑いは人の薬」「一怒一老、一笑一若」「心配は身の毒」「心配は胃の毒」と提唱する氏から、まさに先人たちの智慧のことわざを守って暮らしていくことこそ元気の秘訣だと思いました。

時田昌瑞氏は「いろはカルタに見る健康ことわざ」について、氏のコレクションの中から貴重なカルタを例にとり「健康ことわざ」と「健康実践いろはカルタ作りの勧め」が提言されました。一定数のことわざ習得法やその機会の実践の格好のものこそ「いろはカルタ」であると氏は提唱します。なお、今回の

大会告知ポスターと冊子の表紙のカルタは氏のコレクションで、絵も句も楽しく「化粧美より健康美」「金歯よりみがいた白歯」等々説得力あるものです。

さてカルタに歯が出てきたところで塩田博文氏は福島県の開業歯科医の提言です。演題「天佑神助」とは、氏の座右の銘。常に心の持ちようは大切、天も佑(助)け神も助けてくれると信じれば心を強く持てる、というものと言います。歯科医としての経験が「高すぎず大きくもなく真ん中をバランス良くが歯合(しあ)わせの道」に生きています。

「健康」を軸に薬剤師・医師・研究者・歯科医と多士済々な面々が「ことわざ」から紐解き明かす知の時間、会場内からも活発な意見・質問も出て有意義な時間となりました。

### 【懇親会】

シンポジウムは本来「お酒を飲む」という「饗宴」を意味したそうですが、ここからはまさに知の饗宴。「健康とことわざ」にふさわしく、百薬の長と食、情報・意見交換に酔いしれた駿河台の夜は更けて……。再会と健康を約束し家路に、駅に、そして街並みへと向かいました。 以上